

# Wada Times Vol.18

生徒会を中心に沿道でも声援しました▼



▼4区で区間賞をとった鈴木さん(1年)が山田区長から表彰されました



▲男子2区石川君(3年)の激走



# 準優勝

Congratulations!

## 和田中女子駅伝チーム



▲準優勝した、原、藤原、西來、鈴木、元村、阿邊、石井、大高、森のメンバー

さる十二月十三日(日)第10回杉並区中学校対抗駅伝大会が和田堀公園を中心に10.5キロの周回コースで行われ、公立、私立中学校の男子26校、女子25校が競う中、和田中女子チームが準優勝の快挙を成し遂げました。これは、自主的に始めた朝練習の成果とチームが団結した証(あかし)です。男子は残念ながら好成績を残せなかったものの、練習を積んで挑んだ堂々の走りでした。男女ともにこの経験を生かし、来年はさらなる飛躍を遂げて欲しい。

- 1区■原恵子さん(3年) (区間8位)  
「嬉しい」の一言です。個人としては不本意だったのですが、後からみんなが引き上げてくれたのが嬉しかったです。来年は優勝して欲しい。
- 2区■藤原末琴さん(2年) (区間2位)  
「前の人について行こう」から「抜きたい」という気持ちに変わってきました。「和田中頑張れ」の声が聞こえると辛さも和らぎました。応援してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。
- 3区■西來春咲さん(2年) (区間4位)  
「順位をおとさない」ことだけを考えて走りました。準優勝できて本当によかったです。
- 4区■鈴木裕奈さん(1年) (区間1位)  
先輩たちが上位でつないで来たタスキを、なんとかそのまま上位で渡そうと必死で走りました。もし機会があれば、来年もがんばりたいです。
- 5区■元村紀妙さん(3年) (区間3位)  
最後は苦しかったです。みんなで練習してきたここまでつないで来たタスキだと思ひ、持てる力を振り絞りました。また沿道での大きな声援も大きな力になりました。ありがとうございます。

### 女子チーム 準優勝おめでとう

副校長 末吉雄二

この大会のために、女子選手のなかから「よい成績を残したいので朝練習の許可をください」と、校長室へ直接意見を言いに来ました。この意気込みが好結果の始まりでした。十一月四日から十二月十二日まで、期末テストをはさんで「月、水、金」週三日間、男女代表選手が天候に関係なく毎朝練習を続け、汗を流してきました。遅刻をしたり、朝食後だからきついなどの話が出たりしましたが、結局最後まで計画通り練習しました。また、個人練習として放課後や自宅の周りを走るなど、努力してきました。

そういうなかで、私が一番嬉しかったのは補欠選手であっても最後の練習まで力を抜かず懸命に走ってくれたことです。こういう選手がいてこそ、出場選手が安心して競技に参加することができるのです。感謝そのものですね。

当日は、男女ともに最後まで力を出し切った素晴らしい走りでした。よい思い出になったことと思います。また、風が強くて寒い中、応援に駆けつけてくれた同級生や卒業生、多くの保護者や地域の皆さま、ご声援、ご協力、本当にありがとうございました。



“ご声援、ありがとうございました！”

# みんなの意見が 全国に広がっています。

## ▼東京新聞

【若者の声】 11月30日

## 日本語学校 無償に賛成

森安珠（2年）

中央アジア、ウズベキスタンの地方都市リシタンに無償の日本語学校があると初めて聞きました。そして、とてもうれしくなりました。

外国で日本語を無償で教え、いろいろな国で日本語を話せる人が増えていったら、日本の訪問者が増えるのではないかと思いません。また、私たちが外国へ行った時も、街で「こんにちは」「ありがとう」などと声をかけてくれる人が増えると思う。

私は、日本の未来を明るくしたい。だから、外国で日本語の授業を無償で行うことに賛成です。今の日本をもっともつと良い国にするために、みんなの大好きな国にするための、第一歩になると思っています。



## ▼読売新聞

【気流】 11月30日

## 学級委員長は必要

立川尚登（1年）

鳥取県の小学校で、長い間いなかった「学級委員長」が復活したことを新聞で知りました。僕はとてもよいことだと思いました。むしろ、なぜなかったのか疑問に思っています。

「人気投票に陥りがち」などの理由から、置かない小学校が増えたそうです。でも、僕は置いた方が、皆の意見がまとまり、学校をよりよくすることができると思っています。リーダーシップを教えることもできます。いないと、自分勝手なことを言う人が増えて混乱が起きると思うのです。

和田中学校では火曜日の7校時には「新聞を読む」授業を行っています。十一月の授業では、気になった記事に自分の意見を書いて新聞社に投稿をしました。みんなの意見が各新聞の紙面で取り上げられ、若者の意見として全国の方々に届けられています。

## ▼毎日新聞

【みんなの広場】 12月18日

## 高齢者に不利な 医療制度 やめて

石井美咲（1年）

後期高齢者医療制度の廃止は、民主党の公約です。私はこの制度について書いた記事を読んで初めて知りました。そして、読んだ直後から私も本当にどうなるんだらうなと思いました。

私は高齢者全体にかかる医療費がどんなに高くても、高齢者にとつて不利な制度は定めてはいけないと思います。なぜなら高齢者の方たちは今まで日本のために働いてくれていたのだから、これからは私たちが頑張つて高齢者の方たちを楽にさせてあげなくてはならないのです。

でも今は75歳以上の高齢者の数がふえてきているから、そう簡単なことではないと思います。でも私たちがその分頑張つていけば、少しでも高齢者の方に楽とまではいかないかもしれないけれど、楽しい、苦しくない生活を送つてもらふことができるよ！

## ▼産経新聞

【談話室】 12月7日

## ウーフの記事で 農業に興味

服部真依（2年）

有機農場で働くかわりに、食事と宿泊場所を提供してもらう農業体験制度「WWOOF」(ウーフ)が日本でも広がっているという記事を読んだ。

このイギリス生まれの制度を体験できる農場は、今では北海道から沖縄まで全国に350か所もあるという。体験できる内容もさまざま、食の安全に興味のある消費者と、人手を必要とする有機農業者が交流できることは、お互いにメリットがあると思う。

↓思います。そうやって、みんなが協力していけば、平和で楽しい暮らしが日本全体に広がっていくのではないかなと思います。後期高齢者医療制度を廃止してからどんな医療制度になるか分からないが、国民のことをきちんと考えて決めてほしいです。